



第 153 号

二〇一八年一月二日発行
発行者 奈良県立
橿原考古学研究所
奈良県橿原市畝傍町一番地
編集者 鈴木裕明

謹賀新年

— 橿原考古学研究所創立八十周年の年頭にあたって —

菅谷文則

橿原考古学研究所は、昭和一三年九月一三日に創立された。その年の春頃から、橿原神宮神域拡張と畝傍山東北陵参道等の拡張整備工事が始められた（起工式は、十三年五月八日）。これらの工事は全国からの建国奉仕隊、つまり勤勞奉仕によって行われた。合わせて一二万余人が参加した。一四年一月二六日に奉仕隊は解散式を行った。

工事現場の各所から土器等の出土が報告されたので、奈良県史跡名勝天然記念物調査会の末永雅雄が、調査担当することになった。現在の橿原神宮東参道南側近くに、神域整備の工事事務所が仮設されていたが、調査事務所は、さらにその西側に設けられた。道具置場のような仮設建築が、橿原考古学研究所の創立の姿

であった。この位置については、市内畝傍町在住の高橋綾野さん（九十歳）から教えていただいた。紀元二六〇〇年奉祝記念事業ともなう工事は、昭和一四年に概ね完了した。大和国史館の敷地（現在の研究所の場所）に研究所の仮設建物は移築された。場所は、現在の保存科学棟から本館荷解場にかけての位置で、木造スレート葺の南北に長い建物であった。二ヶ所に吊り扉があり、内部に間仕切りはなかった。研究所の先輩のお話の中に出てくる囲炉里は、細長い建物のほぼ中央にあり、扉を開けて折れ曲がったところにあった。私をはじめここにいらした昭和三四四年頃は、北半分には柵が組み立てられていた。

写真1 橿原考古学研究所の場所を説明する高橋綾野さん



写真2 昭和一三年の仮設調査事務所のあった場所



館の高床式鉄筋コンクリート倉庫を建設するため撤去された。その後、昭和四八年度に考古博物館は、橿原公苑から独立した。本年は、幅広く、多くの成果を上げてきた橿原考古学研究所が、八十周年を迎える。『古き革袋に新しき酒』の諺のように、研究所を内面から変革して行政機関としての立場を貫きつつ、研究と社会貢献の充実を図る一年間にしたい。今後も研究所が永く継続するための一年目としたい。現職員の奮起をうながしたい。調査と研究の高度化と社会貢献もうながしたい。関係各位皆様のご鞭撻と、ご指導を改めてお願いしたい。

謹賀新年
— 橿原考古学研究所創立八十周年の年頭にあたって —

目次

「奈良県立橿原考古学研究所創立八十周年を祝う会」 設立と事業のご案内	編 集 部 3	菅谷文則 1
ご案内 橿原考古学研究所創立八十周年関連事業	編 集 部 4	青木明美 2

檀原考古学研究所創立八十周年によせて

檀原考古学研究所友史会会長

一般財団法人檀原考古文化財団代表理事 青木明美

研究所が八十周年を迎えられること心よりお祝い申し上げます。長きにわたって常に考古学界の先頭を引つ張り、発展に寄与されてこられたのは、歴代の所長をはじめ研究員、学芸員の皆様の日頃の研鑽と果敢な実践の賜物と推察いたします。

友史会は研究所・博物館の友の会、檀原考古文化財団はミュージアムショップを経営して研究所・博物館を盛り立てて支援し、ともに歩んできました。

さて、友史会は昭和三十年、附属博物館の前身である大和歴史館が開催する「美術史の会」として第一歩を踏み出しました。第一回は臨地講座として檀原公苑長土井實先生と歴史館主任の小島貞三先生に今でも定番コースの明日香村を案内いただきました。初回参加者は十九人でした。発足当時のガリ版刷りの往復はがきの開催案内と会報はまさに学芸員の方々の手作り。初年の例会は暑い七月に二回と八月も開催し、気候の良い十一月は農繁期休み。ヒートア

일랜드現象もない当時は夏休みが活動の中心だったのかもしれない。

友史会の名前は翌昭和三十一年の友史会誌第一号発行に際し土井實先生が命名されたと伺っております。

その後、何度か名称変更され、昭和五六年から現在の檀原考古学研究所友史会となりました。

友史会代表は博物館館長が勤めておりましたが、昭和六一年、友史会三十周年の節目の年から会則を定め、自主運営することになり、会員の中から、中井寅一さんが会長として就任しました。これは、菅谷所長のご指導と伺っております。自主運営開始から今年で三三年、会長は私で八代目となります。また、友史会紋章もこの時に、菅谷所長の指示で博物館におられた須藤聖子さんが慈光寺鬼面紋紬丸瓦を元にデザインされました。

会員は全国に広がり、二割程度は関東圏、一割程度は中部圏にお住まいです。これら遠隔地の会員のために、平成元年より東京で、平成十五

年より名古屋で、大和考古学講座を開催しております。東京では年四回（うち二回は春秋の特別展関連講演会）、名古屋で二回開催し、さらに大阪と名古屋で交互に秋の特別展関連の講演会を開催しております。講師の先生方には、毎回、最新の発掘情報や特別展にちなんだテーマで講演いただいております。満員の盛況です。

友史会の悩みの一つが近年の会員数の減少です。会員の平均年齢はここ十年間で五才上昇しており、定年の延長による新入会員の高齢化も要因かと思えます。また、運営委員は高齢で入れ替わりが激しく、人材補充も悩みです。友史会は継統が第一ですので、社会情勢にあわせた運営をめざしてまいります。

檀原考古文化財団は、平成九年の博物館リニューアルに合わせて、博物館の魅力向上のため開設されたミュージアムショップを経営しております。

ショップは開設当初から友史会が運営に関与する覚書を結んでおりましたが、商品の仕入れや経理処理は専任の博物館事務職員が行い、実質的には博物館の運営でした。平成十四年に、県より営業行為は博物館業務にそぐわないとの指摘を受け、友

史会運営委員会が資産を引き継ぎ運営することになりました。しかし運営委員の入れ替わりが激しく、店舗経営の経験のない運営委員ではショップ運営を継続するのは難しく、任意団体では事務員を雇えない、責任が運営委員個人にかかることなどの問題が生じました。

そこで平成二四年に友史会会長がこれまで引き継いできた資産を財団に拠出する形で一般財団法人を設立いたしました。法人格を得たことで、専任の事務員を雇用でき、経理面も明朗になりました。役員には友史会員、研究所・博物館のOBと、現職の研究員、博物館管理職が理事、監事、評議員に名を連ねていただけたことで今後も組織の継統ができます。

ショップの売り上げの約五割を書籍が占めますが、昨今の世情から売り上げが伸び悩んでいて、安定財源は図録販売手数料です。一方、新商品の開発にも力を注ぎイワミングッズは定番商品になりました。平成二八年には『やまとのみやけと女性司祭者 シンポジウム予稿集』を財団名で初めて出版することができ、完売いたしました。今後も安定した運営を目指して、研究所・博物館に貢献してまいりたいと思っております。

「奈良県立橿原考古学研究所創立八十周年を祝う会」 設立と事業のご案内

橿原考古学研究所（橿考研）

が、平成三十年に創立八十周年を迎えるにあたり、橿考研を日ごろからご支援していただいている各界の方々により、「奈良県立橿原考古学研究所創立八十周年を祝う会」（御代表 橿原神宮宮司 久保田昌孝様）を、平成二十九年一月二七日に設立していただきましたことをご報告します。

祝う会からの御申し出によれば、橿考研が八十周年を機に、日本のみならずアジアの考古学研究の中核機関としてさらなる飛躍をするため、支援事業を計画されるとともに、その資金をお集めいただけるのとことです。支援事業としましては、学術出版事業と共同研究支援事業を挙げておられます。学術出版事

業は、天理市所在の黒塚古墳の研究報告書『黒塚古墳の研究』の刊行です。三〇四世紀の東アジア史研究の新たな礎を、橿考研の手で築くようにとのご激励です。また研究支援事業は、橿

考研を核とした国内外の考古学研究機関との共同研究を推進し、考古資料の高精度分析により、正倉院御物に匹敵する新資料の発見と、ユーラシア規模での古代文化交流の解明につながるようにと、可搬型高精度蛍光X線分析装置等をご支援していただくものです。

橿考研では、創立八十周年を祝う会に感謝申し上げますとともに、今後同事業に広くご協賛いただきます皆様方に、重ねて御礼申し上げます。

奈良県立橿原考古学研究所創立八十周年を祝う会発起人（五十音順）

- 青木 明美（一般社団法人橿原考古文化財団代表理事）
- 青山 信房（社会医療法人平成記念病院理事）
- 浅井 充晶（公益財団法人由良大和古代文化研究協会代表理事）
- 甘利 治夫（株式会社奈良新聞社代表取締役）
- 石野 博信（兵庫県立考古博物館名誉館長）
- 植島 賢照（公益財団法人由良大和古代文化研究協会業務執行理事）
- 植村 康夫（飛鳥寺住職）
- 植村 家忠（奈良商工会議所会頭）
- 梅田 勝文（高取町長）
- 大野 玄妙（橿原考古学研究所附属博物館ミュージアムトークの会世話役代表）
- 岡田 祝雄（聖徳宗総本山法隆寺管長）
- 花山院 弘巨（真言宗醍醐派大本山大峯山龍泉寺住職）
- 喜多 俊介（春日大社宮司）
- 喜多 一嘉（俳優・考古学者）
- 川俣 海淳（喜多酒造株式会社代表取締役会長）
- 久保田 昌孝（龍蓋寺（岡寺）住職）
- 里中 満智子（橿原神宮宮司・本会発起人代表）
- 佐野 純子（大安寺管主）
- 篠原 豊一（奈良市埋蔵文化財調査センター所長）
- 下尾 茂敏（奈良県立橿原考古学研究所友史会会長）
- 白石 太一郎（大阪府立近つ飛鳥博物館館長）
- 鈴木 寛治（大神神社宮司）
- 高内 良輔（上宮皇院菩提寺（天台宗橘寺）住職）
- 高木 俊則（法相宗大本山興福寺貫主）
- 竹田 正映（橿原市教育委員会事務局文化財課長）
- 田代 弘興（真言宗豊山派総本山長谷寺住職）
- 辻村 泰善（真言律宗元興寺住職）
- 寺澤 隆男（奈良市纏向学術センター所長）
- 中井 雅美（大和ガス株式会社代表取締役会長）
- 長岡 昌紀（奈良テレビ放送株式会社代表取締役社長）
- 並河 健紀（奈良社団法人橿原観光協会会長）
- 西山 明彦（天理市長）
- 前田 藤三郎（律宗総本山唐招提寺長老）
- 松井 智子（田原本町教育委員会事務局次長）
- 村上 正剛（一般社団法人橿原考古文化財団理事）
- 真野 太鳳子（桜井市長）
- 森 村上（法相宗大本山薬師寺管主）
- 森 正光（石上神宮宮司）
- 森 裕滋（金橋ホールディングス株式会社代表取締役社長）
- 森川 一介（明日香村長）
- 森下 豊一（山の考古学研究会会長）
- 山本 太治（橿原市長）
- 山本 俊一（三和澱粉工業株式会社代表取締役会長）
- 山本 太治（株式会社三輪山本代表取締役社長）

ご 案 内

榎 考 研 創 立 八 十 周 年 関 連 事 業

平成三十年度に榎考研は、八十周年記念行事として、式典、祝宴、特別展、講演会、記念出版等、様々な事業を予定しています。

式典・祝宴には、日ごろからお世話になっております皆様にご来場いただけますよう、計画をすすめております。詳細につきましては、研究所と友史会を通じて後日ご案内させていただきます。本号では、事業の概要と時期について、先行してご紹介します。

① 八十周年記念式典

日 時：平成三十年六月一六日
(土) 午後三時

会 場：榎原考古学研究所講堂
内 容：式典、講演会

② 八十周年記念祝宴

日 時：平成三十年六月一六日
(土) 午後五時三十分
会 場：榎原ロイヤルホテル
ロイヤルホール大和
※会費制

③ 八十周年記念特別展

◇春季特別展

会 期：平成三十年四月二一日
(土) ～ 六月一七日(日)
テ ー マ：『(仮) 榎考研の八十年
―旧石器時代から倭の
五王の時代まで―』

研究講座：平成三十年五月六日

(日)、六月十日(日)、
いずれも午後一時～
四時三十分、

会 場：榎考研講堂

大和考古学講座

…平成三十年四月三十日

(土)

会 場：東京国立博物館

◇秋季特別展

会 期：平成三十年十月～
一二月
テ ー マ：『(仮) 榎考研の八十年
―古墳時代後期
―平安時代―』

④ 八十周年記念冊子の出版

書 名：『榎原考古学研究所
一九三八―二〇一八』
出 版：平成三十年六月

⑤ 記念講演会等

内 容：東京新聞共催
『よみがえる古代の大和』
平成三十年八月
『(仮) 天武・持統朝
の考古学』
公開講演会・平成三十年

一月二三日(東京)

一月二五日(奈良)

「(仮) 古代アジア文化
の輝き 飛鳥・奈良」
(予定)

⑥ 研究会

内 容：日本中国考古学会
二〇一八年度大会
平成三十年一月三・
四日(予定)

⑦ 記念論集の出版

(榎原考古学研究所論集十七)
テ ー マ：『空間・ひと・装飾』
出 版：平成三十年九月一三日
(創立記念日・予定)
販 売：八木書店

*訂正とお詫び

第一五一号三頁一段二・四行

(誤) 「東大寺三堺四至図」

(正) 「東大寺山堺四至図」

訂正してお詫び申し上げます
(編集担当)。